

令和5年度
第2回みと好文カレッジ運営審議会

日 時 令和6年3月1日(金)
午前10時00分～
場 所 水戸市総合教育研究所
2階 研究室1

みと好文カレッジ

【次 第】

1 開 会

2 委員長あいさつ

3 議 題

- (1) 令和5年度みと好文カレッジ事業実施報告について
- (2) 令和6年度みと好文カレッジ運営方針及び主要施策（案）について
- (3) 令和6年度みと好文カレッジ事業実施計画（案）について
- (4) その他

4 閉会

(1) 令和5年度みと好文カレッジ事業実施報告について

1 市民センターへの支援・指導

(1) 東湖塾の開催

ア 新任職員研修

(ア) 集合研修

月日	内容	講師	参加者	令和4年度
4月13日(木)	①市民センターについて ②生涯学習の推進について ③地域防災について ④電送窓口関係について	①市民生活課職員 ②みと好文カレッジ職員 ③防災・危機管理課職員 ④市民課職員	新任所長及び 新任会計年度 任用職員(新 任でない希望 者を含む) 23人	新任所長及び 新任会計年度 任用職員 11人

(イ) 訪問研修

月日	内容	講師	参加者	令和4年度
前期6月~8月 後期9月	市民センターにおける生涯学習事業の推進方策等について	みと好文カレッジ職員	新任所長及び 新任会計年度 任用職員 前期16回 18人 後期1回 1人	新任所長及び 新任会計年度 任用職員 前期10回 10人 後期10回 10人

イ 全体研修

(ア) 集合研修

月日	内容	講師	参加者	令和4年度
6月19日(月)	①現代的課題と講座の企画の流れ ②意見交流会～定期講座等について～ ③電送窓口について～戸籍の遡り等～ ④クレーム対応について～電話対応・窓口対応について～ ⑤公務員倫理 ⑥市民センターで使用する公文書等について～起案文書作成の重要性～	①茨城県水戸生涯学習センター主任社会教育主事 江幡 覚 ②みと好文カレッジ職員 ③市民課職員 ④総務法制課職員 ⑤人事課職員 ⑥総務法制課職員	市民センター 会計年度任用職員 43人	—
①8月29日(火) ②9月29日(金)	普通救命講習 I	一般社団法人 水戸地区救急普及協会	市民センター 所長又は会計年度任用職員 ①16人 ②14人	市民センター 所長又は会計年度任用職員 ①14人 ②18人
令和6年 1月9日(火)	「市民協働」を誘う市民センターの創造	茨城キリスト教大学 兼任講師 池田 幸也	市民センター 所長 29人	ファシリテーション入門 ①講義 ②実演 市民センター 所長 ①30人 ②16人
1月17日(水)	生涯学習講座におけるSDGsについて	水戸市消費生活センター センター長 田山 知賀子	市民センター 所長又は会計年度任用職員 28人	人が集まる講座とチラシの作り方について 市民センター 会計年度任用職員 25人

(イ) ブロック研修（意見交流会）

月日	内容	講師	参加者	令和4年度
8月23日（水）	（東部ブロック） 定期講座の充実や募集方法について，移動学習の企画・立案方法や引率における安全確保について	みと好文カレッジ 職員	東部ブロック 会計年度任用 職員 7人	北部ブロック 会計年度任用 職員 5人
8月25日（金）	（内原ブロック） 定期講座の充実や募集方法について，移動学習の企画・立案方法や引率における安全確保について		内原ブロック 会計年度任用 職員 4人	常澄ブロック 会計年度任用 職員 4人

(ウ) 訪問研修

月日	内容	講師	参加者	令和4年度
前期 後期8月～12月	市民センターにおける生涯学習事業の推進方策等について	みと好文カレッジ 職員	所長及び社会 教育事業担当 者 前期 0回 0人 後期 33回 36人	所長及び社会 教育事業担当 者 前期 1回 1人 後期 24回 31人

ウ 学習プログラム作成研修（ブロック研修）

月日	内容	講師	参加者	令和4年度
①5月31日（水） ②6月21日（水） ③7月24日（月） ④8月24日（木）	（北部ブロック） 現代的課題や地域課題の見出し方や課題解決のための学習プログラム作成に関する知識や技術を習得する	みと好文カレッジ 職員	北部ブロック 会計年度任用 職員 4人	東部ブロック 会計年度任用 職員 6人

(2) 好文塾の開催

月日	内容	講師	参加者	令和4年度
①11月8日(水) ②11月22日(水) ③12月18日(月)	<p>(北部ブロック)</p> <p>健康寿命を延ばし、毎日を若々しく過ごすために、心身共に健康な生活を送ることを目指す</p> <p>「健康寿命を延ばそう！～毎日を若々しく過ごすために～」</p> <p>①笑いヨガ ～笑う門には元気来る～</p> <p>②正しい姿勢で筋力アップ！～歩きで若さをキープする～</p> <p>③移動学習 ～健康の秘訣とは？～</p>	<p>①水戸笑いヨガリーダー 河合 和子</p> <p>②ポスチャーウォーキング協会認定ポスチャースタイリスト 鈴木 律子</p> <p>③ー</p>	<p>北部地区在住の方</p> <p>定員 25人 応募者 23人 参加者 ①13人 ②13人 ③20人</p>	<p>(東部ブロック)</p> <p>「人生100年時代 健康を考える」 東部地区在住の方</p> <p>定員 30人 応募者 28人 参加者 ①22人 ②20人 ③21人</p>

2 全市的な生涯学習の推進

(1) みと弘道館大学の開催

ア 茨城しぐさ

月日	内容	講師	参加者	令和4年度
6月28日(水)	<p>「相互扶助」や「共生」の精神を学び、「お互いが仲良く、気持ちよく生活する」ための方策を考える</p>	<p>NPO法人 ひと・まちねっとわーく 宮澤 直美</p>	<p>堀原小学校 (授業参観) 4年生 46人 保護者 38人</p>	<p>下大野小学校(授業参観) 4年生 11人 保護者 11人</p>
11月30日(木)			<p>下大野小学校(授業参観) 4年生 13人 保護者 13人</p>	

イ 夏休みプログラミング教室 ～茨城高専生から学ぼう！～

月日	内容	講師	参加者	令和4年度
8月21日(月)	1人1台タブレットを使用し、タブレット版のビジュアルゲームプログラミングツール「IslayTouch(アイラタッチ)」で簡単なゲームを作成しながら、プログラミングの基礎を学習する	茨城工業高等専門学校学生	市内在住又は通学する小学5～6年生 (午前の回) 定員 20人 応募者 38人 参加者 20人 (午後の回) 定員 20人 応募者 24人 参加者 20人	—

ウ 失敗しない小中学生のデジタル機器との付き合い方

月日	内容	講師	参加者	令和4年度
令和6年 1月20日(土)	小中学生が安全にデジタル機器を使用するために保護者が注意すべきことを、具体的な事例を交えた講話等から学習する	ICT支援員 石川 由紀子	市内小中学校に通う子を持つ保護者 定員 30人 応募者 15人 参加者 9人	—

エ まちづくり・ボランティア講座 ～つながる地域、はじめの一步～

月日	内容	講師	参加者	令和4年度
令和6年 2月2日(金)	現代社会におけるまちづくりとボランティア活動の意義と必要性について、具体的な事例を交えた講話等から学習する	茨城キリスト教大学 兼任講師 池田 幸也	市内在住又は通勤・通学する方 定員 30人 応募者 22人 参加者 18人	—

オ 紙芝居『義勇軍物語』動画作成

戦争の悲惨さと平和の大切さについて考える一助として、「次世代に伝えたい朗読と紙芝居のオリーブ」及び内原郷土史義勇軍資料館の協力のもと、紙芝居「義勇軍物語」(成田 富男 作)の読み聞かせの動画を作成し、水戸市公式YouTubeで配信した。再生回数は令和6年1月末現在 773 回。

カ 水戸市生涯学習サポーター活動の推進

現在の登録者数は、人材育成講座「さきがけ塾」第一期修了生から第七期修了生まで合計 68 人。なお、第八期修了予定の 4 人が、令和 6 年 7 月に生涯学習サポーターに登録の見込み。

【生涯学習サポーター協働企画講座】

(ア) 徳川頼房公と備前堀

月日	内容	講師	参加者	令和4年度
①11月20日(月) ②12月13日(水)	水戸藩の誕生と備前堀周辺について学び、そのまちづくりが今も今も息づいていることを知る一助とする ①初代藩主徳川頼房公の人物像と家臣団 ②吉田神社, 備前堀周辺を巡る(現地学習)	①水戸史学会 理事 仲田 昭一 ②水戸市教育委員会歴史文化財課 副参事 関口 慶久	市内在住又は通勤・通学する方 定員 20人 応募者 50人 参加者 ①20人 ②16人	—

(イ) 実りある人生を-心・からだ、そして平安な生活を-

月日	内容	講師	参加者	令和4年度
①11月30日(木) ②12月21日(木) 令和6年 ③1月19日(金) ④2月14日(水)	心身の健康増進・維持と平安な日々を送るための活動を行う ①バランスの良い食事・質の良い睡眠で健康寿命を延ばそう ②その人にあった適度な運動の継続で健康寿命を延ばそう ③音読(素読)を健康長寿に生かそう ④相続のポイントについて学ぼう	①② 生涯学習サポーター 森井 ちさと 生涯学習サポーター・元茨城女子短期大学准教授 坂本 勝江 ③生涯学習サポーター・「弘道館やさしい論語塾」講師 小堀 優 ④ファイナンシャルプランナー 山口 京子	市内在住又は通勤・通学する方 定員 30人 応募者 35人 参加者 ①32人 ②30人 ③26人 ④26人	—

(ウ) 心を癒やしてリラックス ～身体にも心にも潤いを～

月日	内容	講師	参加者	令和4年度
①10月16日(月) ②10月30日(月)	自分に合った癒やしを見つけ、心身の健康につなげる ①脳から深くリラックスー呼吸法を学び、シンギングボウルで新体験ー ②言葉と音の穏やかな時間ー大人のための絵本・読み聞かせとヘルマンハーブの奏でる素敵な世界へー	①ネパール市場 MAYA店主 シュレスタ ル ペス MAYAシン ギングボウルヒ ーリングセンタ ー店主 シュレスタ 夏 子 ②絵本カフェ「な んだかうれし い。」店主 長谷川 鈴子 ヘルマンハーブ 奏者 高崎 利子	市内在住又は 通勤・通学す る方 定員 20人 応募者 61人 参加者 ①19人 ②18人	ー

(エ) 親子でEnjoy!!

月日	内容	講師	参加者	令和4年度
①10月22日(日) ②10月28日(土) ③11月11日(土)	親子と一緒に作る・調べる・遊ぶ等の活動を通し、親子時間をエンジョイして絆を深める ①親子でクッキングーお肉で親子ハロウィン料理ー ②ネイチャーゲームはおもしろいー観て触れて感じて自然と友達になろうー ③サイエンス ラボー静電気で遊ぼうー	①料理研究家 根本 悦子 ②元茨城女子短期 大学准教授 坂本 勝江 ③元学校教員 鈴木 俊之	市内在住又は 通学する小学 3～6年生と その保護者 定員 16組 32人 応募者 28組 56人 参加者 ①15組 30人 ②13組 26人 ③11組 22人	ー

(オ) 消費者トラブルに巻き込まれないぞ! ～こんな手口がある!!～

月日	内容	講師	参加者	令和4年度
①10月13日(金) ②10月20日(金)	市民が詐欺被害や消費者トラブルに巻き込まれないための対処方法を学ぶ ①悪質業者(アンタ)に渡す金はない! ②おまわりさんに聴く!!ーこころのスキマをつくらない!ー	①水戸市消費生活 センター センター長 田山 知賀子 ②水戸警察署 生活安全課	市内在住又は 通勤・通学す る方 定員 30人 応募者 20人 参加者 ①17人 ②16人	ー

(カ) 78年前の水戸空襲を知っていますか？

月日	内容	講師	参加者	令和4年度
12月26日(火)	戦争の紙芝居「ある紙芝居屋の物語 ～それでも、黄金バットはやってくる～」の鑑賞 ※赤塚市民センターとの協働企画講座	次世代に伝えたい朗読と紙芝居のオリーブ	市内在住又は通勤・通学する方 定員 40人 応募者 13人 参加者 13人	—

(2) 子育て応援塾の開催

ア 家庭教育講座

月日	内容	講師	参加者	令和4年度
9月9日(土)	グループディスカッションやロールプレイングなどの体験学習を通して、自己肯定感を高め、コミュニケーション力を磨き、親と子がお互いを大切にしながら日々を過ごすための方法を学習する 「ありのままの自分でハッピー子育て」	コミュニケーションインストラクター 中島 由佳子	市内在住又は通勤・通学する方で子育てに関心のある16歳以上の方(子育て中の方優先) 定員 25人 応募者 31人 参加者 21人	市内在住又は通勤・通学する方で子育てに関心のある16歳以上の方(子育て中の方優先) 定員 25人 応募者 21人 参加者 14人

イ 家庭教育出前講座

月日	内容	講師	参加者	令和4年度
9月2日(土)	未来の扉をひらく絵本の読み聴かせ	朗読家 見澤 淑恵	はぐくみの森あさひ保育園 保護者 6人	申込みなし
9月16日(土)	生きる力を育てる子育て10カ条	水戸市生涯学習サポーター 綿引 均	のぎく保育園 保護者 4人	申込みなし
令和6年 2月17日(土)	子どもの心のケアに役立つコミュニケーション	コミュニケーションインストラクター 中島 由佳子	すずらん石川保育園 保護者 20人	すずらん石川保育園 保護者 31人

(3) 「さきがけ塾」の開催

第八期「さきがけ塾」

月日	内容	講師	参加者	第七期
令和5年4月～ 令和6年6月 原則毎月第2・4 水曜日開催	市民生活を豊かにする学習プログラムを考え、実施に向けた方法を探り、市民目線の講座の企画・実施に参画する人材の育成を図る 理論編 21 回，実習編 2 回，実践編 4 回程度	茨城県生涯学習・社会教育研究会 会長 長谷川 幸介 ほか	生涯学習や学習プログラムの作成に関心のある市民 定員 15 人 応募者 11 人 参加者 4 人	生涯学習や学習プログラムの作成に関心のある市民 定員 15 人 応募者 14 人 参加者 13 人 修了者 13 人

※今年度の詳細は別紙 1 参照

(4) 「さきがけ塾」塾生との協働企画講座の開催

充実したセカンドライフ ～生きがい探し～ (仮)

月日	内容	講師	参加者	令和4年度
令和6年 ①5月16日(木) ②5月30日(木) [予定]	60歳からの心とカラダの健康づくりを学ぶ ①セカンドライフの時間の過ごし方で人生の輝きが変わる ②年齢に負けないカラダづくり	①茨城県生涯学習・社会教育研究会 会長 長谷川 幸介 ②原外科医院 院長 原 毅	市内在住又は通勤するおおむね60歳以上の方 定員 30 人	—

(5) ICT等の新しい技術に関する講座・研修, 新しい技術を活用した講座・研修

スマホ体験講座 ～スマホを安全に使うためのポイント～

月日	内容	講師	参加者	令和4年度
令和6年 ①1月15日(月) ②1月30日(火) ③2月7日(水)	スマートフォンを安全に 使うためのポイントを実 際に体験しながら学び, また, マイナンバーカー ドの申請方法についての 解説等も行う (会場) ①千波市民センター ②内原市民センター ③上大野市民センター	スマートフォンア ドバイザー	市内在住又は 通勤する, ス マートフォン 初心者の方 定員 各会場10人 応募者 合計29人 参加者 ①9人 ②10人 ③7人	(スマホ体験 講座～便利 機能とマイナ ンバー～) 市内在住又は 通勤する, ス マートフォン を使い始めた ばかりの方 定員 各会場15人 応募者 第1弾 合計53人 第2弾 合計58人 参加者 ①14人 ②8人 ③13人 ④9人 ⑤14人 ⑥13人

(6) 子育て支援講座の開催

ア パパといっしょに夢らんど

月日	内容	講師	参加者	令和4年度
①5月13日(土) ②6月3日(土) ③7月1日(土)	(パート1) 2, 3歳児とその父親を 対象に, 様々な講座を実 施することで, 子育て中 の親同士が出会い, 情報 交換の場を作り, 楽しみ ながら子育てできるよう 支援する ①親子運動遊び ②親子アート遊び ③親子ヒップホップ	①保育士 鯉淵 裕志 ②子どもアート講 師 綿引 真宏 ③ヒップホップイ ンストラクター SANAE & KAREN	市内在住又は 通勤する父親 とその子ども (2, 3歳児) 定員 16組 32人 応募者 32組 64人 参加者 ①14組 28人 ②15組 30人 ③14組 28人	市内在住2歳 から3歳未満 までの幼児と その父親 定員 15組 30人 応募者 18組 36人 参加者 ①15組 30人 ②13組 26人 ③15組 30人
①9月26日(火) ②10月31日(火) ③11月28日(火)	(パート2) 2, 3歳児とその父親を 対象に, 様々な講座を実 施することで, 子育て中 の親同士が出会い, 情報 交換の場を作り, 楽しみ ながら子育てできるよう 支援する ①親子運動遊び ②親子ヒップホップ ③親子アート遊び	①保育士 鯉淵 裕志 ②ヒップホップイ ンストラクター SANAE & KAREN ③子どもアート講 師 綿引 真宏	市内在住又は 通勤する父親 とその子ども (2, 3歳児) 定員 16組 32人 応募者 8組 16人 参加者 ①5組 10人 ②4組 8人 ③4組 8人	市内在住2歳 から3歳未満 までの幼児と その父親 定員 15組 30人 応募者 5組 10人 [中止]

イ ほっとひといきママたいむ

月日	内容	講師	参加者	令和4年度
①5月30日(火) ②6月13日(火) ③7月4日(火)	(パート1) 子育て中の保護者が、子どもと離れる時間を持ち、育児に関するテーマについて学び、他の保護者と意見交換をする機会を設けることにより、リフレッシュするとともに家庭教育について考える一助とする ①音楽と心の成長 ②子どもの救急対応 ③トイレトレーニング	①音楽療法士 馬立 明美 ②保健師 茂木 佳子 ③やす託児所理事 長 安 のり子	市内在住の乳幼児(就学前)のお子さんをもつ保護者 定員 16人 応募者 34人 参加者 ①10人 ②12人 ③10人	市内在住の乳幼児(就学前)のお子さんをもつ保護者 定員 12人 応募者 49人 参加者 ①12人 ②10人 ③11人
①9月28日(木) ②10月12日(木) ③11月2日(木)	(パート2) 子育て中の保護者が、子どもと離れる時間を持ち、育児に関するテーマについて学び、他の保護者と意見交換をする機会を設けることにより、リフレッシュするとともに家庭教育について考える一助とする ①ちょこっとおかたづけ ②ことばと遊び ③どうするいやいや期	①整理収納アドバイザー 國生 輝枝 ②言語聴覚士 高橋 まどか ③茨城女子短期大学非常勤講師 橋本 祥子	市内在住の乳幼児(就学前)のお子さんをもつ保護者 定員 16人 応募者 27人 参加者 ①13人 ②11人 ③12人	市内在住の乳幼児(就学前)のお子さんをもつ保護者 定員 12人 応募者 43人 参加者 ①12人 ②10人 ③11人
令和6年 ①1月12日(金) ②1月26日(金) ③2月9日(金)	(パート3) 子育て中の保護者が、子どもと離れる時間を持ち、育児に関するテーマについて学び、他の保護者と意見交換をする機会を設けることにより、リフレッシュするとともに家庭教育について考える一助とする ①仕上げ歯みがき ②時短クッキング ③叱っちゃいけないの	①歯科衛生士 伊藤 敦子 ②フードインストラクター 軽部 知美 ③株式会社RION 代表取締役 鷺田 美加	市内在住の乳幼児(就学前)のお子さんをもつ保護者 定員 16人 応募者 47人 参加者 ①13人 ②14人 ③13人	—

(7) 「あなたも師・達人制度」の活用促進

	登録者数 (人)	派遣依頼件数 (件)	派遣件数 (件)	派遣人数 (人)
令和5年度	312	8	8	8
令和4年度	303	12	7	8

※令和5年度は令和6年1月末現在。

(8) 育児ボランティア「えくぼ会」制度の利用促進

	登録者数 (人)	派遣件数 (件)	派遣人数 (人)	預かった子ども (人)
令和5年度	51	16	131	133
令和4年度	44	21	111	104

※令和5年度は令和6年1月末現在。

育児ボランティア研修会の開催

月日	内容	講師	参加者	令和4年度
①4月18日(火) ②4月28日(金)	普通救命講習Ⅲ	一般社団法人 水戸地区救急普及 協会	育児ボランテ ィア「えくぼ 会」会員 ①17人 ②15人	育児ボランテ ィア「えくぼ 会」会員 ①19人 ②13人
令和6年 2月22日(木) [予定]	託児ボランティアの基 礎知識	東野保育園園長 佐藤 比呂美	育児ボランテ ィア「えくぼ 会」会員	現在の託児の 注意事項につ いて 育児ボランテ ィア「えくぼ 会」会員 21人

(9) 学習情報の提供

- ア みと好文カレッジホームページへの事業等の掲載
- イ みと好文カレッジ情報誌の発行

(10) 学習相談事業の充実

ア 相談者状況 (件)

	行政	団体	個人	合計
令和5年度	18	5	29	52
令和4年度	11	7	45	63

イ 相談・情報提供状況 (件)

	学習機会	施設	指導者	団体・グループ	教材(図書)	その他	合計
令和5年度	21	0	14	2	0	15	52
令和4年度	33	1	8	4	0	17	63

ウ 相談方法状況 (件)

	電話	面談	FAX	メール	合計
令和5年度	50	1	0	1	52
令和4年度	60	2	0	1	63

※令和5年度は令和6年1月末現在。

(11) 国・県・他市町村・企業・NPO等民間非営利団体・教育機関との連携の推進

ア NPO法人 ひと・まちねっとわーくとの連携事業

NPO法人 ひと・まちねっとわーくの講師を活用した出前講座を開催した。詳細は「2 全市的な生涯学習の推進 (1) みと弘道館大学の開催 ア 茨城しぐさ」を参照。

イ 株式会社NTTドコモとの連携事業

「スマホ体験講座 ～スマホを安全に使うためのポイント～」を、総務省が実施している「利用者向けデジタル活用支援推進事業」に参画しているNTTドコモの講師を活用して実施した。詳細は「2 全市的な生涯学習の推進 (5) ICT等の新しい技術に関する講座・研修, 新しい技術を活用した講座・研修 スマホ体験講座 ～スマホを安全に使うためのポイント～」を参照。

ウ 明治安田生命保険相互会社との連携事業

市民センターへの支援として、同講師を活用した講座の開催を市民センターに提案した。本提案により、千波市民センター（女性教養）、常磐市民センター（高齢者教育）、稲荷第一市民センター（高齢者教育）、堀原市民センター（女性教養）、吉沢市民センター（高齢者教育, 女性教養）、吉田市民センター（成人教育）、寿市民センター（女性教養）、見和市民センター（女性教養）、鯉淵市民センター（高齢者教育）が講座を開催した（令和5年12月報告分まで）。

(12) 水戸市訪問型家庭教育支援事業

ア 水戸市訪問型家庭教育支援推進協議会の開催

協議会委員6人

開催回数	日時
2回	令和5年8月30日（水）午後1時30分～ 令和6年2月28日（水）午前10時～（予定）

イ 水戸市訪問型家庭教育支援員による家庭訪問等の実施

支援員10人

	ケース会議(回)	個別訪問世帯数(世帯)	個別訪問回数(回)
令和5年度	9	21	34
令和4年度	11	30	50

※令和5年度は令和6年1月末現在。

【小学校1年生世帯全戸訪問】

保護者にはあらかじめ学校を通し、全戸訪問について文書にて周知を図り、2人1組で訪問した。訪問にあたっては、玄関先にて短時間で行い、児童の家庭での様子等を聞き取り、事業について周知をした。不在であった場合には、個別訪問希望の有無についてのアンケートをポストへ投函し、提出するよう依頼した。さらに、令和6年1月～2月に全訪問世帯に事後アンケート調査を実施し、効果の検証を行うとともに、再度事業の周知を行っている。

	城東小学校	赤塚小学校
訪問世帯数	25世帯	22世帯
面会世帯数	21世帯	20世帯
不在世帯数	4世帯	2世帯

ウ 広報活動

- (ア) 水戸市ホームページに掲載
- (イ) 保健所・子育て支援課・こども政策課・市民課・各出張所にチラシ配布依頼
- (ウ) 子育て支援総合ガイドブックに掲載
- (エ) 幼稚園・保育所等にチラシ配布・ポスター掲示依頼
- (オ) 市立小学校等にチラシ配布・ポスター掲示依頼，就学時健診時のチラシ配布依頼
- (カ) 市民センターにチラシ設置・ポスター掲示依頼
- (キ) 「広報みと」（5月15日号，8月1日号）に記事掲載
- (ク) SNS（公式LINE，X，Facebook）にて情報配信
- (ケ) 水戸市青少年育成推進会議情報誌「道芝」第71号（令和5年8月15日発行）に記事掲載
- (コ) 月刊「ぷらざ」6月号に記事掲載

エ 支援員による出張訪問の実施

- (ア) **就学時の健康診断を活用した事業周知（双葉台小学校）**
就学時健診の際に開催した家庭教育講演会の時間を活用して，事業を周知するとともに，支援員による出張相談を実施した。
- (イ) **入学説明会を活用した事業周知・面談（下大野小学校）**
新入学児童保護者説明会時に，入学予定者の保護者（11人）と1人5分程度の支援員による面談を実施した。当日，アンケートに答えてもらいながら，保護者の入学にあたって不安なことを聞き取りし，事業について周知した。
- (ウ) **支援員による幼稚園・認定こども園訪問**
市立幼稚園・認定こども園のうち，希望があった園を訪問し，保護者へ事業を周知するとともに，支援員による出張相談を実施した。
訪問園数 延べ5園（1学期3園，3学期2園）
相談実施者数 延べ14人
※令和6年1月末現在。

別紙1 第八期「さきがけ塾」理論編の内容等

回	開催日	内 容	講 師	参加者
1	4月26日(水)	開講式 持続可能な社会に向けたまちづくり・ひとづくり①	茨城県生涯学習・社会教育研究会 会長 長谷川 幸介	10人
2	5月10日(水)	ファシリテーションを学ぼう	NPO法人 セカンドリーグ茨城 理事長 横須賀 聡子	7人
3	5月24日(水)	ファシリテーターになろう		9人
4	6月14日(水)	まちづくりとボランティア活動	茨城キリスト教大学 兼任講師 池田 幸也	8人
5	6月28日(水)	魁のまち、水戸を目指して	水戸市政策企画課	7人
		水戸の防災を学ぶ	水戸市防災・危機管理課	
6	7月12日(水)	SDGsについて学ぼう	水戸市消費生活センター	6人
7	7月26日(水)	美しい街、水戸を目指して	水戸市都市計画課	5人
8	8月2日(水)	受講者側に立って学ぶ 「紫芳の字手紙講習会」	紫芳の字手紙認定講師 寺門 忍	6人
9	8月23日(水)	水戸の歴史を学ぶ	水戸市教育委員会歴史文化財課	7人
10	9月13日(水)	持続可能な社会に向けたまちづくり・ひとづくり②	茨城県生涯学習・社会教育研究会 会長 長谷川 幸介	7人
11	9月27日(水)	学習プログラムづくり実践の手法	元学校長 比留間 範之	6人
12	10月11日(水)	学習プログラムづくり①		4人
13	10月25日(水)	チラシづくりに挑戦	水戸市生涯学習サポーター 見澤 淑恵	5人

14	11月8日(水)	学習プログラムづくり③	元学校長 比留間 範之 水戸市生涯学習サポーター 綿引 均, 小平 文和	5人
15	11月22日(水)	学習プログラムづくり④		5人
16	12月6日(水)	学習プログラムづくり⑤		4人
17	12月20日(水)	学習プログラムづくり⑥		3人
18	令和6年 1月10日(水)	アンケートづくりの実践	水戸市生涯学習サポーター 小平 文和	3人
19	1月31日(水)	学習プログラムづくり⑦	元学校長 比留間 範之 水戸市生涯学習サポーター 綿引 均, 小平 文和	3人
20	2月14日(水)	学習プログラムづくり⑧		3人
21	2月28日(水) [予定]	ためして合点!プレゼンテーション	元学校長 比留間 範之	

※10月25日(水)の内容は、「学習プログラムづくり②」を「チラシづくりに挑戦」に変更。

別紙2 令和5年度みと好文カレッジ実施事業評価

<東湖塾の開催 事業評価>

予算額	決算見込額	指標	評価
50 千円 (報償費)	31 千円	・生涯学習推進基本計画 訪問研修実施数目標値 70 件 ・事業実施目的達成度	A
評価・課題 ・訪問研修について、前期は新任職員がいる 16 か所の市民センターで、後期は全 34 市民センターで実施し、各市民センターの実情に応じたアドバイスをを行った。 ・例年実施している「救急救命講習」及び新たな集合研修（まちづくりをテーマとした『「市民協働」を誘う市民センターの創造』、『生涯学習講座におけるSDGsについて』）を開催した。			

<好文塾の開催 事業評価>

予算額	決算見込額	指標	評価
222 千円 (報償費, 賃借料等)	164 千円	・事業実施目的達成度 ・定員に対する応募人数, 参加人数 ・受講者アンケート結果	A
評価・課題 ・今年度実施講座 1 講座 (北部ブロック ブロック研修) ・健康寿命を延ばし、毎日を若々しく過ごすために、心身共に健康な生活を送ることを目指すことをねらいとして3回シリーズとして実施した。 ・受講者アンケート結果は、今後の生活の参考にしたなど良かったという声が多かった。			

<みと弘道館大学（茨城しぐさ、夏休みプログラミング教室、失敗しない小中学生のデジタル機器との付き合い方、まちづくり・ボランティア講座、紙芝居『義勇軍物語』動画作成）の開催事業評価>

予算額	決算見込額	指標	評価
133 千円 (報償費等)	58 千円	・事業目的達成度 ・受講者アンケート ・定員に対する応募人数, 参加人数	A
評価・課題 ・茨城しぐさについて、前期及び後期の学校長会連絡会での説明を実施したことにより、2 件の申し込みがあった。 ・小学校では、「プログラミング教育」が必修化され、プログラミング的思考が将来の職業においても重要になってきている。そのため、夏休み期間を利用し、茨城高専の生徒に協力してもらい、タブレット版のビジュアルゲームプログラミングツール「IslayTouch (アイラタッチ)」を用いてプログラミング体験講座を開催した。 ・インターネット上でトラブルに巻き込まれること等もあり、小中学生のデジタル機器との付き合い方は今後ますます重要になってきている。そこで、小中学生の子を持つ保護者が、小中学生が安全にデジタル機器を使用するために注意すべきことを学習することで、小中学生のデジタル機器との付き合い方に目を向けることをねらいとした講座を開催した。 ・ボランティア活動は、住民の主体的な参加を得て、多様な主体の連携・協働と幅広い人材の支援により行われるものであり、地域づくりに不可欠である。市民一人一人がまちづくりの意義とボランティア活動の重要性を学ぶことで、まちづくりやボランティア活動に目を向ける目的としてまちづくり・ボランティア講座を開催した。 ・紙芝居『義勇軍物語』動画を作成し、水戸市公式YouTubeで配信した。			

<水戸市生涯学習サポーター活動の推進 事業評価>

予算額	決算見込額	指標	評価
753 千円 (報償費等)	241 千円	<ul style="list-style-type: none"> ・生涯学習推進基本計画, 2か年実施計画 目標値 生涯学習サポーター80人, 協働企画講座 10講座 ・事業目的達成度 ・定員に対する応募人数, 参加人数 ・受講者へのアンケート結果 	B
評価・課題 <ul style="list-style-type: none"> ・生涯学習サポーター 68人 (令和5年度末見込み) 今後, 新規登録予定者数 4人 ・協働企画講座実施数…6講座 ・サポーターが家庭教育, 健康, 歴史, 消費生活と様々なジャンルから企画し, 市民目線での講座を市民に提供することができた。 ・定員程度または定員以上の応募があった。 ・受講者へのアンケート結果については, いずれも高評価だった。 			

<子育て応援塾の開催 事業評価>

予算額	決算見込額	指標	評価
222 千円 (報償費等)	85 千円	<ul style="list-style-type: none"> ・事業目的達成度 ・受講者アンケート ・定員に対する応募人数, 参加人数 	A
評価・課題 <ul style="list-style-type: none"> ・概ね定員程度の応募があった。 ・受講者へのアンケート結果については, 「子どもにどう向き合うべきか子育てに悩んでいたが, 心が軽くなり, 楽しく子育てが出来そう。気持ちが前向きになり, とても貴重な体験ができました。」など高評価だった。 ・出前講座については, 3件の申し込みがあった。 			

<「さきがけ塾」の開催 事業評価>

予算額	決算見込額	指標	評価
635 千円 (報償費, 賃借料等)	234 千円	<ul style="list-style-type: none"> ・令和5年度生涯学習サポーター新規登録予定者数 4人 ・事業目的達成度 ・定員に対する応募人数, 参加人数 	C
評価・課題 <ul style="list-style-type: none"> ・現在, 講座の企画から開催までの学習プログラム作成を実施しているところである。 ・事業開始当初は, 受講者 11人だったが, 各個人の諸事情により 4人となっている。 			

<ICT等の新しい技術に関する講座・研修, 新しい技術を活用した講座・研修の開催 事業評価>

予算額	決算見込額	指標	評価
—	3 千円	<ul style="list-style-type: none"> ・事業目的達成度 ・受講者アンケート ・定員に対する応募人数, 参加人数 	B
評価・課題 <ul style="list-style-type: none"> ・デジタルディバイド解消に向けた「はじめてのスマホ体験講座」は, 全市民センターで開催した。 ・みと好文カレッジにおいても, スマホを安全に使うためのポイントを盛り込んだ, 「スマホ体験講座」を開催した。 ・定員程度の応募があった。 			

<子育て支援講座の開催 事業評価>

予算額	決算見込額	指標	評価
445 千円 (報償費, 消耗品費)	358 千円	<ul style="list-style-type: none"> ・ 事業目的達成度 ・ 受講者アンケート ・ 定員に対する応募人数, 参加人数 	A
評価・課題 <ul style="list-style-type: none"> ・ 父親向けの「パパといっしょに夢らんど」は, 参加者アンケート結果でも「同学年の子どもと時間を共有できたのは良かった。」「大人も一緒に体を動かして良かった。」など, 高評価だった。ただし, 平日開催のパート2は, 毎回参加ではなくしたものの, 応募人数が少なかったので, 開催日について検討する必要がある。 ・ 「ほっとひといきママたいむ」は, 昨年度, 人気であったため今年度は3回開催した。フリートークの時間は, 保護者同士の交流の場となり良かった。なお, 応募については, パート1, パート2, パート3のすべてにおいて, 定員を超える応募があった。 			

<育児ボランティア「えくぼ会」制度の利用促進 事業評価>

予算額	決算見込額	指標	評価
62 千円 (報償費等)	31 千円	<ul style="list-style-type: none"> ・ 事業目的達成度 	A
評価・課題 <ul style="list-style-type: none"> ・ 育児ボランティア活動中, 事故や災害があった時のために応急手当の方法, 「自動体外式除細動器 (AED)」の使用法について, とっさの時に対応できる救命法を学ぶことができた。 ・ 現在の託児の注意事項等を再確認するとともに, 「えくぼ会」の活動での疑問点等を共有するなど会員同士の交流が図れた。 			

<水戸市訪問型家庭教育支援事業 事業評価>

予算額	決算見込額	指標	評価
990 千円 (報償費等)	939 千円	<ul style="list-style-type: none"> ・ 2か年実施計画 訪問件数目標値 40 世帯 ・ 事業目的達成度 	A
評価・課題 <ul style="list-style-type: none"> ・ 公立の幼稚園園長会, 保育所所長会, 民間の幼稚園協会及び保育園長会に出席し事業説明を行い, チラシ配布等を依頼した。 ・ 2小学校区の小学1年生のいる世帯 (47 世帯) に対して, 全戸訪問を実施した。 ・ 就学時健康診断時や新入学時保護者説明会において, 事業周知を行った。 ・ 訪問型家庭教育支援員を増加した。今後, 就学時健康診断や新入学時保護者説明会における事業周知などを実施するに当たり, 教員OBの支援員確保が課題である。 			

※事業評価基準

評価	評価基準
A	目標を達成することができた。前年度に比べ, 成果が向上した。
B	目標を達成することができた。前年度と比べ, 成果は同程度の水準であった。
C	目標の達成に向け取組を進めたが, 一部達成できなかった。

(2) 令和6年度みと好文カレッジ運営方針及び主要施策（案）について

1 運営方針

生涯学習都市宣言を踏まえ、全市的な生涯学習の総称である「みと弘道館大学」の開催を通して、どのような状況下でも学びを止めることなく、少子・高齢化、高度情報化、地域社会における連帯感の欠如や家庭の教育力の低下等の現代的課題を解決するための学習機会を提供するとともに、学習成果を地域活動やまちづくりに生かしていくための環境づくりを進める。

また、市民の生涯学習活動の振興を図るため、社会教育活動における基礎的なことからより専門的・実践的な知識や技術について、市民センター職員の力量を高める研修の機会を充実させるとともに、多様化、高度化する市民のニーズに応えるため、市民センターとの連携を強化しながら、時代の新たな課題に対応した学習プログラムの開発を進めるなど、市民センターへの支援・指導を強化する。

2 主要施策

(1) 市民センターへの支援・指導

ア 東湖塾の開催

市民センター職員に、生涯学習の基礎となる社会教育の知識を深める研修や家庭教育の支援の強化など、専門的・実践的な知識、技術を身につけ、職員の力量を高めるための研修会を開催する。

さらに、多様化、高度化する市民のニーズに応えるため、市民センターとの連携を強化しながら、現代的課題解決に向けた学習プログラムを研究・開発し、時代に合った新しい講座を先進的な市民センター講座として提案する。

- (ア) 新任職員研修（集合研修，訪問研修）
- (イ) 全体研修（集合研修，ブロック研修，訪問研修）
- (ウ) 学習プログラム作成研修（ブロック研修，訪問研修）

イ 好文塾の開催

東湖塾の学習プログラム作成研修等において研究・開発された現代的課題を取り扱った企画講座が市民センター事業として根付くよう、市民センターとみと好文カレッジの共同事業として位置づけ、市民センターにおける開催を支援する。

- (ア) 市民センター職員（ブロック単位）とみと好文カレッジ職員で企画した学習講座の開催
- (イ) 市民センター職員（単独）とみと好文カレッジ職員で企画した学習講座の開催

ウ 市民ニーズに対応した学習機会の提供

市民の学習ニーズの把握に努め、「個人の要望」や「社会の要請」に応じた学習をバランス良く提供できるよう市民センターの支援を行う。

- (ア) 市民ニーズを捉えた学習機会の提供
- (イ) 市民センター事業の現状と課題の調査

エ 事業評価の推進

講座や事業に参加した市民が日常生活の中で学習の成果をどのように生かしているのか、また、地域の中でどれだけ活動に関わっているのかなど、事業の成果を検証することが求められている。そのため、市民センターにおいては、実施した講座や事業の自己評価を行うとともに、運営審議会等による自己評価に基づいた第三者評価を行い、より効果的な事業運営を進められるよう事業評価を推進する。

また、みと好文カレッジ等による事業評価を実施していく。

- (ア) 市民センターによる自己評価の実施
- (イ) 市民センター運営審議会委員による第三者評価の実施
- (ウ) みと好文カレッジによる事業評価制度の実施

(2) 全市的な生涯学習の推進

ア みと弘道館大学の開催

急激な社会の変化に対応し、人間性豊かな生活を営むために人々が学習する必要のある課題、いわゆる現代的課題の解決に向けた学習講座を市民に提供するとともに、学んだ成果がまちづくりや人づくりに生かされるよう内容の充実を図る。

また、時代に合った講座や「水戸市生涯学習サポーター」との協働による先進的な学習プログラムを市民に提供する。

- (ア) 茨城しぐさ
- (イ) 水戸市生涯学習サポーター協働企画講座

イ 子育て応援塾の開催

家庭の教育力の向上を図るため、親としての役割や子どもとのコミュニケーションの取り方を考え、見つめ直す機会を提供する。

- (ア) 家庭教育講座
- (イ) 家庭教育出前講座

ウ 「水戸市生涯学習サポーター」活動の推進

市民と行政との協働企画講座の企画・実施への参画をはじめ、「さきがけ塾」での学習成果を生かした活動を推進する。また、生涯学習サポーターに対する研修会の開催など、サポーター自身が、日々変化している現代的課題や地域における課題について学習する機会を提供する。

エ パイロット事業の開発・研究

現代社会の課題や人づくりをテーマとしたもの、ICT等の新しい技術を活用した講座など、先進的な講座を開発、研究し、開発した講座を各市民センター等の社会教育施設や地域団体等でも実施できるよう支援する。

オ パパといっしょに夢らんど、ほっとひといきママたいむの開催

家庭教育支援事業の一環として、未就学児とその保護者を対象に、親子で活動する場や親同士、育児ボランティアとの情報交換の場を提供することによって、育児に対する悩みや不安を解消し、楽しみながら子育てができるよう支援する。

カ 「あなたも師・達人制度」の活用促進

「あなたも師・達人制度」の登録指導者の募集や活用を広報「みと」やホームページ、情報誌などの各種広報媒体により周知を図るとともに、市民センター等の社会教育施設やPTA、ボランティア団体、NPO等が主催する講座や研修会の講師として積極的に紹介し、登録指導者の有効活用を促進する。

キ 育児ボランティア制度の活用促進

子育て中の保護者が生涯学習活動に参加できるよう、講座開催中に別室で子どもを預かる「育児ボランティア制度」の活用促進と登録ボランティアの拡充を図るため、市民センター等の社会教育施設や社会教育関係団体に積極的に紹介し、制度の有効活用を促進する。

ク 学習情報の提供の充実

生涯学習活動を推進するため、みと好文カレッジの事業等を掲載した生涯学習情報誌の発行や新しい情報のホームページへの掲載など、生涯学習活動を積極的にPRする。

ケ 学習相談事業の充実

市民やボランティア団体等からの生涯学習相談に対し、適切で役立つ助言ができるよう、各種生涯学習情報の収集と整理を行う。

コ 国・県・他市町村・企業・NPO等民間非営利団体・教育機関との連携の推進

国や県・他市町村との連携を図り、相互の生涯学習に関する情報を共有化するとともに、企業・NPO等民間非営利団体・教育機関と連携し、それぞれが持つ人的・物的資源の活用を図り、協働で現代的課題や地域の課題についての学習プログラムを作成、開催する。

サ 訪問型家庭教育支援事業の拡充

地域人材を活用した家庭教育支援員を派遣し、家庭でのしつけなどに悩みを持つ保護者への個別訪問等の拡充を図る。あわせて、市内1～2小学校区の小学1年生のいる世帯への全戸訪問や就学時の健康診断、入学説明会等を活用した出張訪問等を実施し、子どもの生活習慣に関する相談等に対応することにより、さらなる家庭の教育力の向上を目指す。

(3) 令和6年度みと好文カレッジ事業実施計画（案）について

1 市民センターへの支援・指導

(1) 東湖塾

市民センター職員に生涯学習の基礎となる社会教育の知識を深める研修や専門的・実践的な知識、技術を身につけ、職員の力量を高めるための研修会等を開催する。

さらに、現代的課題解決のための学習プログラムの研究・開発を行うとともに、多様化、高度化する市民のニーズに応え、時代にあった新しい講座を発掘し、先進的な市民センター講座として提案する。

研修方法は、一堂に会する「集合研修」と各市民センターへ出向く「訪問研修」を取り入れる。

ア 新任職員研修

市民センターに人事異動により新たに着任した者や新規採用者を対象に、市民センター職員として事務事業を遂行するための基本的知識を身につける。

(7) 集合研修

- 対象者 令和6年度新任市民センター所長及び新任会計年度任用職員
- 日時 4月予定
- 会場 本庁舎（予定）
- 内容

内容	説明者
市民センターについて	市民生活課
地域防災について	防災・危機管理課
生涯学習の推進について	みと好文カレッジ
電送窓口関係について	市民課

(1) 訪問研修

- 対象者 令和6年度新任市民センター所長及び新任会計年度任用職員
- 日程 前期（6月頃）、後期（10月～12月頃）各期、対象者を各1回訪問
- 内容 ①市民センターの運営について
②生涯学習の推進について

イ 全体研修

市民センター職員として、生涯学習の中の社会教育事業を推進していくための基礎知識の習得や事業の企画立案の進め方等、職員の支援にあたる。

(7) 集合研修「第1回市民センター職員研修会」

- 対象者 市民センター会計年度任用職員
- 日時 未定
- 会場 未定
- 講師 未定
- 内容 未定

(イ) 集合研修「第2回市民センター職員研修会」

- 対象者 市民センター職員（所長又は会計年度任用職員）
- 日 時 未定
- 会 場 未定
- 講 師 一般社団法人 水戸地区救急普及協会
- 内 容 普通救命講習Ⅰ

(ウ) 集合研修「第3回市民センター職員研修会」

- 対象者 市民センター会計年度任用職員
- 日 時 未定
- 会 場 未定
- 講 師 未定
- 内 容 未定

(エ) 集合研修「市民センター所長研修会」

- 対象者 市民センター所長
- 日 時 未定
- 会 場 未定
- 講 師 未定
- 内 容 未定

(オ) 訪問研修

- 対象者 社会教育事業担当職員
- 日 程 10月～12月頃に、対象者を各1回訪問
- 内 容 ①市民センターの運営について
②生涯学習の推進について

※計画訪問のほか、市民センターからの要請を受け、随時、実施する。

(カ) ブロック研修「意見交流会」

- 対象者 ①南部ブロックの会計年度任用職員
②中央ブロックの会計年度任用職員
- 日 時 8月～9月を予定（2時間程度）
- 会 場 ①見川市民センター
②常磐市民センター
- 内 容 市民センターにおける生涯学習事業等を進める上で疑問に感じている事について、同じ業務に携わる会計年度任用職員が一堂に会し意見交換を行うことにより、ブロック内職員の交流を深め事務の効率化を図る一助とする。

ウ 学習プログラム作成研修

社会教育事業に従事する職員として、高度で多様化した住民のニーズに対応するため、専門的・実践的な知識や技術を身につけ、地域住民に様々な学習の機会を提供する必要がある。

そこで、市民センターの職員を対象に、現代的課題や地域課題の見出し方や課題解決のための学習プログラム作成に関する知識や技術を習得することを目的とする。

- 対象者 常澄ブロックの会計年度任用職員
なお、研修を希望する個別の市民センターにも対応する。
- 日 程 6月～8月（4回程度実施予定）
- 会 場 大場市民センター
- 内 容 同じブロックの職員が共同で地域課題の整理や学習プログラムのテーマを選定し、ブロック内の地域住民を対象とした講座を企画・実施する。

(2) 好文塾

東湖塾で研究・開発された現代的課題を取り扱った学習プログラムの作成企画講座が、市民センター事業として根付くよう「好文塾」と名づけ、市民センターとみと好文カレッジとの共同事業として開催する。また、作成した学習プログラムが全ての市民センターにおいて取り組めるようモデル事業として位置づけ、市民センター活動を支援する。

常澄ブロック好文塾

- 対象者 常澄ブロック内住民

2 全市的な生涯学習の推進

(1) みと弘道館大学の開催

急激な社会の変化に対応し、人間性豊かな生活を営むために人々が学習する必要がある課題、いわゆる現代的課題解決に向けた学習講座を市民に提供するとともに、学んだ成果を生活の充実や向上に活かされるよう内容の充実を図る。

また、時代にあった講座や「水戸市生涯学習サポーター」との協働による学習プログラムを市民に提供する。

ア 茨城しぐさ

「相互扶助」や「共生」の精神を学び、「お互いが仲良く、気持ちよく生活する」ための方策を考えることにより、規範意識の向上と良好な人間関係を築く一助とすることを目的とする。

- 対象者 小学4年生から中学3年生及びその保護者（学校単位で実施）
- 日 程 令和7年2月末日まで随時
- 講 師 NPO法人 ひと・まちなっとわーく
- 内 容 授業参観、PTA研修会、総合的な学習の時間等、希望があった場に講師の派遣を行い、ロールプレイや講義を通して人付き合いの心構えを学ぶ。

イ 水戸市生涯学習サポーター活動の推進

人材育成講座「さきがけ塾」の修了生が水戸市生涯学習サポーターに登録し、みと好文カレッジとの協働企画講座や、市民センターとの協働企画講座を市民に提供する。

なお、現在の登録者数は、第1期生から第7期生までで68人。令和6年7月に第8期修了生4人が登録予定。

(7) 生涯学習サポーター企画講座

生涯学習サポーターを4～6程度のグループに分け、企画講座を実施予定。時期は9月以降を予定。

(イ) 市民センターとの協働企画講座

生涯学習サポーターから、市民センターと協働で講座を企画したいグループを1～3程度募り、実施予定。

(ウ) 研修会の実施

生涯学習サポーターに対し、現代的課題や地域における課題について学習する機会を提供する。研修内容、実施時期は未定。

(2) 子育て応援塾の開催

家庭の教育力の向上を図るため、子育てに関する講座や学習機会を提供する「子育て応援塾」を開催する。

ア 家庭教育講座

子育てを控えた親や子育て中の親等が気軽に集い、相互交流や子育ての不安・悩みを吐露できる場を提供するとともに、体験学習をとおして、親としての役割や子どもとのコミュニケーションについて考えることにより、家庭における教育力の向上を目指す。

○対象者 市内在住または在勤で子育てに関心のある16歳以上の方（子育て中の方を優先）

○定員 30人（予定）

○日時 未定

○会場 水戸市総合教育研究所（予定）

○講師 コミュニケーションインストラクター 中島 由佳子

○内容 グループディスカッションやロールプレイング等の体験学習をとおして、親と子がお互いを大切にしながら日々を過ごすための方法を学習する。

イ 家庭教育出前講座

保護者が家庭教育の重要性を改めて認識し、子どもたちが家族の触れ合いを通じて、「生きる力」を育めるよう、講師が幼稚園等に出向き、家庭教育に関する講座を開催する。

○対象者 私立幼稚園、認定こども園、民間保育園の保護者等

○会場 各私立幼稚園、認定こども園、民間保育園

○講師 ①朗読家 見澤 淑恵

②コミュニケーションインストラクター 中島 由佳子

③茨城女子短期大学非常勤講師 橋本 祥子

○内容 未定

○日程 令和7年2月末頃まで随時予定

(3) 「さきがけ塾」塾生との協働企画講座

市民と行政との協働による学習講座の企画・実施に携わる「水戸市生涯学習サポーター」を目指し、「さきがけ塾」第八期生のテーマ『持続可能な社会に向けたまちづくり・ひとづくり』を学んだ受講生が、学習の成果として作成した講座を市民に提供する。

- 対象者 市内在住又は通勤するおおむね 60 歳以上の方
- 定員 30 人 (予定)
- 日時 ①令和 6 年 5 月 16 日 (木)
②令和 6 年 5 月 30 日 (木)
- 会場 内原市民センター
- 講師 ①茨城県生涯学習・社会教育研究会 会長 長谷川 幸介
②原外科医院 院長 原 毅
- 内容 60 歳からの心とカラダの健康づくりを学ぶ。

(4) ICT等の新しい技術に関する講座・研修、新しい技術を活用した講座・研修の開催

様々な世代を対象とし、デジタル技術を安全に活用するための正しい知識やスキルを身につけるための講座を開催予定。詳細については未定。

(5) プログラミング講座の開催

子ども向けのプログラミング講座を開催予定。詳細については未定。

(6) 子育て支援講座の開催

ア パパといっしょに夢らんど

家庭教育支援事業の一環として、2, 3 歳児とその父親を対象に、様々な講座を実施することで、子育て中の親同士が出会い、情報交換の場を作り、楽しみながら子育てできるよう支援する。

- 対象者 市内在住又は、勤務する父親と 2, 3 歳児の親子
- 日時 パート 1 5～7 月頃の土曜日 (全 3 回) を予定
パート 2 9～11 月頃の土曜日 (全 3 回) を予定
- 会場 パート 1 常磐市民センター
パート 2 上大野市民センター
- 受講者 親子 16 組 (親 1 人, 子 1 人)
- 参加費 未定
- 講師 未定
- 内容 親子運動遊び, 親子アート遊び, 親子クッキングをテーマとした内容を予定。

イ ほっとひといきママたいむ

子育て中の保護者が、子どもと離れる時間を持ち、育児に関するテーマについて学び、他の保護者と意見交換をする機会を設けることにより、リフレッシュするとともに家庭教育について考える一助とする。

- 対象者 市内在住の乳幼児（就学前）のお子さんをもつ保護者
- 日 時 パート1 5～6月頃（全3回）を予定
パート2 9～10月頃の水曜日（全3回）を予定
パート3 1～2月頃（全3回）を予定
- 会 場 パート1 水戸市総合教育研究所（予定）
パート2 桜川市民センター
パート3 水戸市総合教育研究所（予定）
- 受講者 16人
- 参加費 無料
- 託 児 無料（生後6カ月～未就学児）
- 講 師 未定
- 内 容 未定

(7) 育児ボランティア「えくぼ会」

ア 前期研修会

育児ボランティア中、事故や災害があった時のために応急手当の具体的な説明、実技「自動体外除細動器（AED）」をとおり、とっさの時に対応できる救命法を学ぶ。

- 対象者 育児ボランティア「えくぼ会」会員
- 日 時 4～5月頃を予定
- 会 場 未定
- 講 師 一般社団法人 水戸地区救急普及協会
- 内 容 普通救命講習Ⅲ ※主に小児、乳児、新生児対象

イ 後期研修会

会場、内容、日程等については未定。

(8) 国・県・他市町村・企業・NPO等民間非営利団体・教育機関との連携の推進

国や県・他市町村との連携を図り、相互の生涯学習に関する情報を共有するとともに、企業・NPO等民間非営利団体・教育機関と連携し、それぞれが持つ人的・物的資源の活用を図る。

ア NPO法人 ひと・まちなっとわーくとの連携事業「茨城しぐさ」

NPO法人 ひと・まちなっとわーくの講師を活用した出前講座を開催する。詳細は「2 全学的な生涯学習の推進 (1) みと弘道館大学の開催 ア 茨城しぐさ」を参照。

イ 明治安田生命保険相互会社との連携事業

市民センターへの支援として、「地元の『公民館』元気プロジェクト」を実施している明治安田生命保険相互会社の講師を活用した講座の開催を市民センターに提案する。

ウ 協働講座の開催

企業・NPO等民間非営利団体・教育機関と連携し、協働で現代的課題や地域の課題についての講座を開催する。

(9) 水戸市訪問型家庭教育支援事業

核家族化や少子化等による地域のつながりの希薄化等により、家庭教育を支える環境は大きく変化するとともに、家庭をめぐる問題は複雑化しており、社会全体で家庭教育を支援する必要性が高まっている。

本事業においては、家庭でのしつけや子どもへの関わり方等について悩みを抱えているにもかかわらず、様々な事情により相談や保護者向けの学びの場に出てくることが困難な保護者に対して支援を届け、保護者への支援を通じ子どもの育ちを支えていくことを目的にしている。

ア 支援対象

市内在住の小学校1年生までの子を持つ家庭

(開始当初は未就学児を持つ家庭であったが、令和2年度から対象拡大)

イ 支援員数

10人(元教員、保健師、ソーシャルワーカー、子育て支援団体関係者)

ウ 訪問方法

(7) 個別申込みによる訪問

元教員や保健師、ソーシャルワーカー等の家庭教育支援員(現在10人)が、2人1組で個別に対象家庭を訪問し、家庭教育に関する相談に乗り情報提供を行い、必要に応じ専門機関へとつなぐ個別訪問を実施している。

(イ) 全戸訪問

市内2校程度(計約50世帯)を選定し、小学校1年生を持つ家庭への訪問を行う。

新入学保護者説明会や就学時の健康診断を活用し、就学予定児童の保護者への個別面談を実施する。

(ウ) 支援員による出張訪問

幼稚園の降園時等、保護者の集まる機会に、支援員による出張訪問を実施する。

エ 広報活動

(ア) 小学校、幼稚園、保育所等へのチラシ配布やポスター掲示、3歳児健康診断等でのチラシ配布

(イ) ホームページやSNSでの情報発信等

(ウ) 就学時の健康診断時のチラシ配布や保護者へ事業案内

(エ) 学校長連絡会や私立幼稚園協会、民間保育園園長会等での事業周知

オ 水戸市訪問型家庭教育支援推進協議会の開催

教員や子育て支援団体関係者等6人の委員からなる協議会を設置し、事業の推進方針や家庭教育支援員の活動支援に関すること等を協議する。年2回開催予定。